

令和2年度学校自己評価システムシート(県立けやき特別支援学校)

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につけさせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校
--------	---

重点目標	1 病弱教育としての「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを行う。 2 自立活動の実践をベースに子ども一人一人をしっかりと見つめ、スムーズな復学を目指す。 3 子ども主体の各種活動とおし、豊かな心・創造性を育む。 4 病弱教育のセンター的機能を拡充し、病弱教育の理解を広げる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>・文科省の委嘱研究の最終年度のまとめに向けて、3つの学び(特に深い学び)について、実践等重ねていく必要がある。(研究部)</p> <p>・ICT機器を活用し、病弱教育における「主体的・対話的で深い学びの授業」の実践をさらに充実させることが課題である。(小学部)</p> <p>・国語・数学・社会・理科・英語の公開授業を設定し、学部で授業評価の中で、「深い学び」につながるICT活用法を共有・実践する。(中学部)</p> <p>・機器の使用頻度が高まり、新ネットワークの安定した運用とICT機器の整備・管理を充実させる必要がある。(情教部)</p> <p>・通知表の書式変更と年計の見直し及び年計の実施時数について、検討が必要である。(教務部)</p>	<p>新学習指導要領をふまえ、ICT機器等を活用した、病弱教育における「主体的・対話的で深い学びの授業」を実践する。</p>	<p>研究概要を提示し、方向性を明確にする。併せて、実践及び考察を10月、まとめを11月に行い、全体確認する時間を設ける。(研究部)</p> <p>・学部職員がグループに分かれ、ICTを有効に活用し、深い学びを実践できる方法を模索し、在籍児童の実態に応じて系統的に授業を展開するための研究を進める。(小学部)</p> <p>・各教科・領域でICT機器の使用が有効な場面を見出し、授業実践する。実践後は使用効果を生徒用授業評価シートにより振り返り、より有用な使用方法を見出す。(中学部)</p> <p>・サポートデスク等関連課署と適宜、連携を図り、研修に参加する。機器の使用方の周知及び貸出し方法の工夫を行う。(情教部)</p> <p>・計画的に通知表の書式変更、年計の作り替えを行う。年計は、分かりやすい書式に見直す。(教務部)</p>	<p>・12月の研究報告会開催に向け、左記をはじめとする計画に沿って進めることができたか。(研究部)</p> <p>・各研究グループが年間を通して計画的に研究を進め、研究を行った授業における深い学びを充実させることができたか。(小学部)</p> <p>・ICT機器の活用により対話的な学びを確保し、生徒の主体性を更に高め、深い学びにつなげることができたか。(中学部)</p> <p>・関連課署と連携を図ることができたか。機器の扱い方や貸出し方法を周知し、円滑な機器運用ができたか。(情教部)</p> <p>・小は通知表の書式変更、年計の作り替えが1学期中に、中は2学期検討、3学期に準備できたか。年計の新書式は提案を5月、2学期に準備・検討が行えたか。(教務部)</p>	<p>・コロナ禍により研究開始が遅れたが、計画を若干見直すことで、予定どおり12月にオンラインによる研究報告会を開催することができた。全国から、300名超の方に参加いただいた。</p> <p>・学部研究において計画的に研修を実施し、ICT機器を有効に活用することで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりを行うことができた。</p> <p>・ICT機器の効果的活用により空間的・時間的に離れた生徒同士の対話的な学びを重ね、深い学びにつなげた。生徒の振り返りシートから学びの度合いを確認した。</p> <p>・ICT機器の扱い方、貸出方法について周知、工夫することで破損や紛失が減った。機器の不具合等についてもサポートデスクをはじめ関連課署と連絡を取り、迅速に対応できた。</p> <p>・公簿の管理を適正に行うことができた。次年度も同様に取り組んでいく。会議時間を削減し、業務時間を確保した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・全員が研究に取り組み、実践と発表ができる良い。研究開始時期を可能な限り早めたい。今年度中に次期研究の概要を固めるとともに研究方法を工夫し、全員が研究に関わるようにする。</p> <p>・主体的・対話的で深い学びの授業を深めていくために、授業実践の研修が必要になる。日々の授業実践の研修を行うことや教科会からの情報提供を図っていききたい。</p> <p>・小学校での学びの上に中学校での学びを積み上げるという視点を持ち、生徒の考えを発展的に深める必要がある。各教科等において学習指導要領等参考に学習の系統性を再確認していききたい。</p> <p>・物品の管理を適切に行うとともに、機器の活用方法等については適宜研修等設定し、周知に努めていききたい。</p> <p>・中学部の要録と通知表の新書式を、教育課程検討委員会と協力しながら検討・準備していく。併せて、分掌会の削減(維持)を図っていききたい。</p>
2	<p>・復学の不安を解消する手段としてICTを活用することが浸透してきつつあり、復学支援がスムーズになったが、不安を抱えている場合もある。また、病状の急変により、前籍校以外の学校に転入することがある。(相支部)</p>	<p>児童生徒の情報の共有化を図り、子どもを支える保護者、病院、前籍校、関係機関との連携を深め、円滑な復学を目指す。</p>	<p>・復学の不安を解消する手段として、前籍校とテレビ会議システムを使用して繋ぐことで所属感を高める。早めに、病院関係者のカンファに参加し、地域とも繋がり、安心した学校選び、退院後の生活となるようにする。(相支部)</p>	<p>・早めに病院や地域、関連課署と連携することで安心した学校選び、退院後の生活に繋げることができたか。アンケートを作成し、保護者・本人・前籍校から意見をもらい、改善につなげる。(相支部)</p>	<p>・復学後アンケートを作成し、配布、回収を行った。復学支援会議を実施した場合は、全員が順調にスタートしており、会議がない場合も、学校側は80%、保護者側は75%順調にスタートしたと回答が返ってきた。復学の不安を軽減するために、Web会議システム等を活用して前籍校とつなぎ、所属感を高めることができた。</p>	<p>A</p>	<p>・アンケートの結果、安心した復学につながっていることが分かったが、学校側は病状の情報が欲しいこと、保護者は復学後の相談場所や本校からのアドバイスを希望しているので、適宜対応していききたい。</p>
3	<p>・児童生徒が主体的に活動し、安心・安全で学校生活を送るためには、学校生活の中で考えられる危険を予測し、改善することが必要である。(保環部)</p> <p>・在籍数が少なく、各行事における一人一人の活躍の機会が多いため、地元校での経験値や負担過重に配慮して指導支援する必要がある。児童生徒全員が達成感を得られるような活動の設定が課題である。(指導部)</p>	<p>児童生徒主体の学校行事・委員会活動等とおし、達成感・充実感を得ることで、自己肯定感・自立心の育成を図る。</p>	<p>・資料や教材を作成し、学部への情報提供や関連教科等とも連携を図る。児童生徒保健委員会活動の充実を図り、教員間では危険予知トレーニングを実施する。(保環部)</p> <p>・ICTを有効的に活用するなど、全員が主体となって各行事の企画運営に携わることができるよう活動を工夫する。活動後に実施する児童生徒の振り返りシートをもとに、高い満足度を目指して指導支援を改善していく。(指導部)</p>	<p>・分掌内研修、資料・教材作成、学部や関連教科・領域間等との連携、情報提供、児童生徒保健委員会活動、危険予知トレーニング研修会を通し、健康教育推進の働きかけができたか。(保環部)</p> <p>・活動後に実施する振り返りシートにおいて、各児童生徒が活動全体の8割以上で達成感・満足感を得ることができたか。児童生徒の主体的な姿勢や次への活動意欲などの自己評価を引き出すことができたか。(指導部)</p>	<p>・健康教育推進のための活動、働きかけができた。(関連部署への連絡、児童生徒保健委員会活動の活性化、教材資料作成、校内研修会の充実等)</p> <p>・ICTの活用や活動後の振り返りにより、児童生徒が主体的・対話的に活動に取り組み、達成感や充実感を得て、次への意欲につなげることができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・健康教育推進のための活動をより充実させることと併せて、学部や関連部署との連携、信頼関係の維持を図っていく必要がある。</p> <p>・児童生徒の充実感や主体性向上のため、活動後の振り返りを全体で共有し他己評価もフィードバックするなど、委員会活動の取り組み方を工夫する。児童生徒の主体性をより高めるため、ICTの有効的な活用と児童生徒の振り返りの時間を充実させていききたい。</p>
4	<p>・これまでの広報活動の結果、高校生支援や病弱教育の理解が徐々に広がってきている。さらに合理的配慮や基礎的環境整備等を充実させていく必要がある。(相支部)</p>	<p>公開講座、研究発表、高校生支援等を積極的に推進し、病弱教育の理解を広げる。</p>	<p>・教員研修用のパンフレットを作成し、高校や各委員会に配布し、説明をする。また、公開講座や講演会を開催したり、講師として参加した際に啓発したり、病弱教育の理解を広げる。(相支部)</p>	<p>・病弱教育の理解のためのパンフレットを作成し、高校や教育委員会への理解を深めることができたか。(相支部)</p>	<p>・公開講座をWeb開催し、県外からの参加もあった。・復学後アンケートを実施し、安心した復学につながったことが分かった。</p>	<p>A</p>	<p>・市町村教育委員会への病弱教育の理解と私立高校への高校生支援の理解と協力が重要となってくる。教育委員会や前籍校への情報提供の方法や内容をより充実させる必要がある。</p>

学校関係者評価
実施日 令和3年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>ICTを活用し、病弱教育における「主体的、対話的で深い学び」を追求した点は、普通学級においても応用できると思った。コロナ禍においては、「間接体験・疑似体験」についてもとても参考になった。</p> <p>入院中の子どもたちはいつでも登校できる体調ではないため、ICT機器を活用した学習はとても良いと感じました。登校出来ないことで、不安感や孤独感が募り、その事は学習意欲の低下にもつながると考えます。そのような状況下で、ICTの活用は画期的な取組みであり、病室から授業に参加する事で子供達への肉体的な負担が軽減されるとともに、生活にも張り生まれ、精神面へも大きな影響があったと思います。さらに一方通行でない同時双方向型通信は、実際に授業参加している形に近く、より学校がリアルに感じられるように思った。</p> <p>「入院しているからできない」ではなく「入院してもできる」という意識が芽生えてくるのではないかと考えた。</p> <p>入退院が繰り返される中で、学びの連続性が課題になるかと思う。コロナウイルス感染の状況下オンラインを用い全国から320名の参加があり研究内容と研究報告会の実施方法が関係する素晴らしい報告であったと思う。</p>
<p>復学支援は子どものみならず、病状について情報が乏しい教員にとっても安心な復学になると思う。また、復学支援に関しては、復学する学校側の理解と協力がとても重要になると思う。子供達の状況を理解していただく為にも、入院中に子供と復学先との交流が持てるような機会がもう少しあるとより理解が深まり、スムーズに復学が進むように感じた。</p>
<p>コロナ禍であらゆる行事が行えない中、リモートを活用し行事を行えた事は、大きな成果ではないかと感じた。</p> <p>多くの活動がICT、リモートによる実施となったが、コロナ禍より前からICTを取り入れていた実績を活用し、そして先生方の最大限の工夫により授業や行事が行えたと思う。特に学習発表会では教員たちとの討論があり、子どもたちの真剣に課題に取り組む様子が目に見えるようであった。このような発表を通し、対話を行いつつ、自主性を育みながら深い学びとつながっていたと思われる。</p>
<p>対象者が少なかったものの、埼玉県立小児医療センターの規模から、常に学習支援体制が整っていることが重要だと思う。少数であっても実施できたことは評価に値する。</p> <p>今後の課題は、「実技教科や専門教科の実施」「復学後の支援体制」かと思われるので、改善に向けて努めていただきたい。</p>